

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【IADL】

- 英 Instrumental activity of daily living
- 和 手段的日常生活動作
- 略 IADL

【用語解説】

IADLは50年ほど前に提唱された生活自立機能を示す概念である (Lawton MP et al. Gerontologist 1969 ; 9 : 179-8.). 高齢者が家の中で自立するためには、摂食、移動、整容、保清など「身の回りのことが出来る」ことが必要であるが、社会的に自立するためには、さらに生活手段を駆使すること、即ちIADLが保持されていることが必要である。その「ものさし」であるIADL尺度 (Lawton. 1969) は電話、買い物、食事の準備、家事*、洗濯*、交通機関の利用*、服薬管理および財産取扱能力の8項目 (*女性のみ) からなりその可否により男性5点満点、女性8点満点で評価するものである。これら社会的自立に必須とされた項目には時代を超えた普遍性が認められるが、男性は満点でも支援が必要となる場合がありうるなど現状に合わない部分が見られる。25年ほど前にわが国で開発された老研式活動能力指標¹⁾は、IADLに加え知的能動性および社会的役割を総合的に評価する尺度である。IADLに対し、「身の回りのことが出来る」ことは基本的日常生活動作 (basic activity of daily living, BADL) として区別される。認知症やフレイルでは、IADLの低下により、生活支援が必要となることが多くみられる。したがって、超高齢社会を迎えたわが国の医療を担う上で、IADLは重要な概念の一つである。

その他の必要事項：

専門分野：老年医学，老年看護学

関連学会：日本老年医学会，日本老年看護学会など

【引用文献】

- 1) 古谷野亘，橋本迪生，府川哲夫ほか. 地域老人の生活機能老研式活動能力指標による測定値の分布. 日公衛誌1993 ; 40 : 468-78.

【参考図書】

- 1) 日本老年医学会編. 老年医学系統講義テキスト. 東京 ; 西村書店 ; 2013.
- 2) 日本老年医学会編. 老年医学テキスト. 改訂第3版. 東京 ; メディカルレビュー社 ; 2008.

(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 徳田 治彦)
本誌415pに記載